

チャレンジする Someone NEWS

～挑戦者の履歴書

第⑧回

木村 廣志氏 (里山の木彫刻家)

第二の人生はチェーンソーカービング

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

▼コロナ禍の生き方に

千葉県茂原市に2250坪を超える里山を自ら切り拓き、整備し、チェーンソーカービング(手彫)で作品を創りながら暮らしている木村廣志氏(72歳)を紹介する。

自身は、山形県立山形工業高校の建築科を卒業し、東京の建築会社に就職した。当時は、成田空港の開設計画に人手が必要で、5年して成田の建設会社に誘われ千葉県に転居した。仕事は忙しく建築現場で暮らしている木村廣志氏(72歳)を紹介する。

自身は、山形県立山形工業高校の建築科を卒業し、東京の建築会社に就職した。当時は、成田空港の開設計画に人手が必要で、5年して成田の建設会社に誘われ千葉県に転居した。仕事は忙しく建築現場で暮らしている木村廣志氏(72歳)を紹介する。

自身は、山形県立山形工業高校の建築科を卒業し、東京の建築会社に就職した。当時は、成田空港の開設計画に人手が必要で、5年して成田の建設会社に誘われ千葉県に転居した。仕事は忙しく建築現場で暮らしている木村廣志氏(72歳)を紹介する。

▼生まれは山形県

木村廣志氏は、1948年(昭和23年)6月4日、山形県寒河江市谷沢に生まれた。間もなく7歳になる。4人兄弟の末っ子、上3人は姉たち

▼第二の人生の施工管理

施工管理の職務経験は、人生の「施工管理」にも通じるようだ。工程管理・原価管理・安全管理、そして品質管理。この四つの管理が身に染み

▼チェーンソーカービング

自宅の土地の立木伐採や開拓で、初めて手にした「チェーンソー」は、新たな動機づけを、木村氏自身に与えた。「チェーンソーカービング」は、新たな動機づけを、木村氏自身に与えた。「チェーンソーカービング」は、新たな動機づけを、木村氏自身に与えた。

▼もう一つの才能を発見

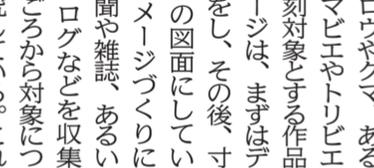
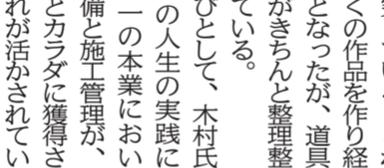
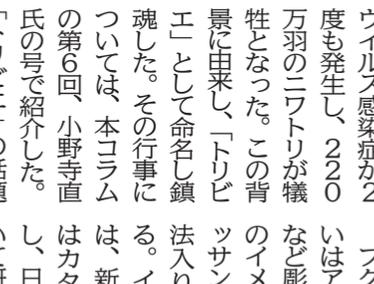
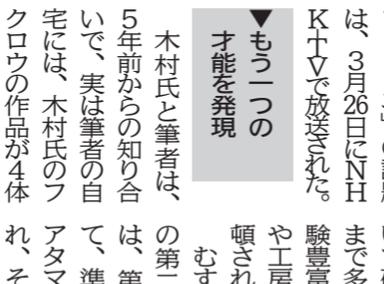
木村氏と筆者は、5年前からの知り合いで、実は筆者の自宅には、木村氏のフクロウの作品が4体あり、事務所にはほかに2体ある。そのいずれもが、精緻な出来栄で、優しく、構図が美しい。



木村廣志氏近影

筆者も、現地を何度も訪ねたが感心するのは、広い土地がいつも整備されていることである。敷地

『いたずら丸太工房・里山風景のエントランス(上・右)／ギャラリー内部(上・左)／(下・左&右)



妖怪「アマビエ」(右)と、新作の「トリビエ」(左)

連載・業界

きたという。

それから12年経った

が、チェーンソーカービングの関わり

はすっかり定着し『いたずら丸太工房・里山風景』と

名付けて、自

然と調和した作品を手掛

てであるという。その

後、1995年には、パ

フォーマンスアートとし

て日本に導入され盛んに

なった。愛知県東栄町で

は、2000年からチェ

ンソーアート競技会が毎

年行われている(202

0年はコロナ禍で中止。

木村氏の作品は、表情

が優しく温かい。人情の

厚さを感じさせる。結

果、カービング仲間が工

房に集まってきた。その

仲間が、コロナの時代に

取り上げたテーマが「ア

マビエ」であり、疫病退

いすみ市では、本年に鳥

ウィルス感染症が2

度も発生し、220

万羽のニトリが犠

牲となった。この背

景に由来し、「トリビ

エ」として命名し鎮

魂した。その行事に

ついては、本コラム

の第6回、小野寺直

氏の号で紹介した。

「トリビエ」の話題

は、3月26日にNH

KTVで放送された。

▼もう一つの

才能を発見

木村氏と筆者は、

5年前からの知り合

いで、実は筆者の自

宅には、木村氏のフ

クロウの作品が4体

あり、事務所にはほかに2体ある。そのいずれもが、精緻な出来栄で、優しく、構図が美しい。

しかし、今回のコラ

ム記事を書くにあたって

ギャラリーに伺いインタ

ビューした。結果、その

疑問は氷解した。その根

底にあるものは、第一の

人生が関わっている。既

述した中にもあるが、そ

れは建築科を卒業し、建

築の現場監督で施工管理

の仕事の本業としてまじ

めに経験したことにあ

る。施工管理は、工事前

の準備、工事中の手順と

安全管理、材料や職人の

準備、そしてコスト管

理、最後には仕上りの

良さを検討するという。

フクロウやクマ、ある

いはアマビエやトリビエ

など彫刻対象とする作品

のイメージは、まずはデ

ッサンをし、その後、サ

法入りの図面にしてい

る。イメージづくりは、

新聞や雑誌、あるいは

はカタログなどを収集

し、口から対象につ

いて研究している。これ

まで多くの作品を作り経

験豊富となったが、道具

や工房がちかんと整理整

頓されている。

むすびとして、木村氏

の第二の人生の実践に

は、第一の本業におい

て、準備と施工管理が、

アタマとカラダに獲得さ

れ、それが活かされてい

た。

1950年代に

アメリカで始まっ

たが、日本では安

たのであった。結果、出

来栄えのいい作品と、誇

り高き人生観には、学ぶ

ことが多い。

【文獻】

①千葉日報、2020年

4月27日『国道沿いに話

題の妖怪「アマビエ」

business/pref-pc_gna

vi

「トリビエ」像設置』

https://www3.

nhk.or.jp/news/

html/20210323/

k10012931391000.

html

⑤佐藤建吉『新

エネルギー新聞』

2021年4月19

日、第⑥回「小野

寺直氏」―歴史

は、過去と現在の

対話である

http://www.kofu

za.jp/images/

nen_2021_06.pdf